

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	MIRAI KODOU		
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日		令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和7年2月15日		令和7年2月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師の在籍が多く医療的ケア児の受け入れが可能で、保育園等の利用困難な利用児にも児童発達支援としての場を安全に提供することが出来ている。	看護師の在籍人数が多いため、定期的に看護師会を開き、ケース情報の共有、医療的ケアの共有、ヒヤリハット・インシデント報告の共有、対策に力を入れている。緊急時対応や心肺蘇生の学習会を定期的に開催している。各看護師が日本小児看護学会スキルアップ研修-医療依存度の高い子どもと家族の看護コース、スキルアップ研修を受講している。	令和7年度は救命救急の講習会の参加を計画している。日本赤十字社主催の幼児安全講習会の受講を予定し、各スタッフに伝達講習を行い、急変時の対応についてのシミュレーションを定期的に行う。各看護師による日本小児看護学会スキルアップ研修-医療依存度の高い子どもと家族の看護コース、スキルアップ研修を受講を継続していく。外部研修への参加も継続していく。
2	理学療法士の在籍により、継続的なリハビリが必要な児童に対しても、個別的な機能訓練に時間を持てる事が強みと言える。運動感覚面の向上としても理学療法士の視点から運動プログラムを作成している。	理学療法士会を定期的に開催し、症例検討を行いリハビリテーションの過程で、どんな問題にどう取り組み、何を果たすかを話し合い、医療者同士で経験を共有し知識を深めている。施術方法の向上を図っている。安楽な体位など、多職種への指導も行っている。	外部研修の参加や他リハビリ施設との情報の共有を図っていく。児童と保護者とも目標を共有し、生活に役に立つリハビリを提供していく。
3	保育士、児童指導員、理学療法士、看護師等の視点を取り入れた療育活動の提供が可能である。医療的ケア児の外出も積極的に行っている。	医療的ケア児、肢体不自由児も可能な限り、外出などの経験を積んで行けるよう安全管理に努めつつ外出の機会を提供している。(公園、イオンモール、図書館等) 他施設(同社3ピース)との交流を図っている。	地域の保育園との交流の場をもつ。保護者を含めた、お出かけ等のイベントの開催を検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会や保護者会の開催等により、保護者同士の交流の機会が十分に設けられていない。	保護者付き添いのクリスマス会等は開催しているが、保護者同士の交流の場とまでは至っていない。	定期的に保護者の会を開催し、保護者同士の交流やスタッフによる保護者への思いの傾聴の場を設けていく必要がある。
2	保育園や認定こども園等の交流がはかれていない。	今まで、地域の保育園との関りがなく交流の機会をもつことができなかったが、昨年より保育園に通園し始めた児童がいるので、保育園に交流の機会を得られそうな時期になってきている。	感染症の流行時を避けて、保育園との交流の機会を持つていく。
3	定期的な面談や子育てに関する助言等の支援が不十分であった。	半年の1度にモニタリング、計画書説明の時や送迎時に保護者の方の思いを傾聴していたが、送迎時のみにしかお会いできない保護者の方もあり、適切な時期に助言は行えていなかった可能性がある。	各関係機関とも協働し、保護者の思いに寄り添う意識を高めて、育児不安の軽減を図っていく。